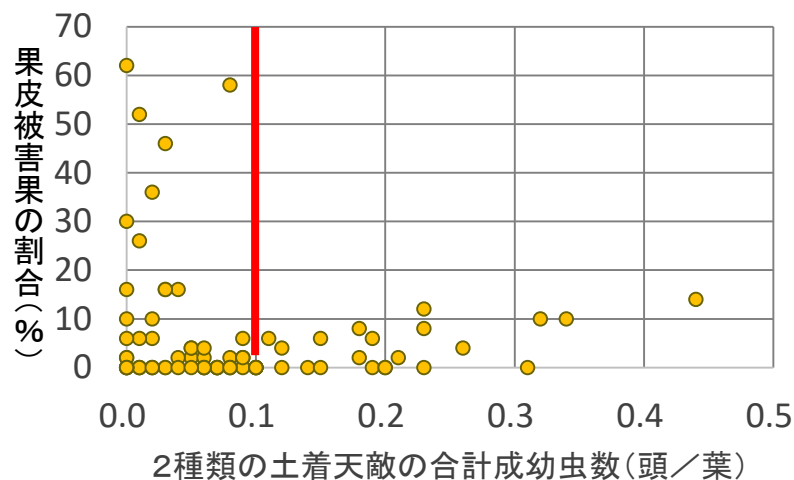


ミナミキイロアザミウマによる露地ナスの被害を抑える土着天敵密度



土着天敵を利用する
露地ナスの栽培風景
(防風ネットの内側に**ごま**と
スカエボラを植栽)



2種類の土着天敵（**タバコカスミカメ**と
ヒメハナカメムシ類）の頭数とミナミキイロ
アザミウマによる果皮被害果の割合

開発のねらい

農薬に対する抵抗性が発達したアザミウマによる露地ナスの果実被害が問題となっています。そこで、促成ナスで広く普及している土着天敵による防除法を、露地ナスにも適用して、果実被害を抑える技術を開発しました。

新技術の概要

- ▶ 土着天敵である**タバコカスミカメ**と**ヒメハナカメムシ類**の合計虫数が葉当たり0.1頭以上の時には、ミナミキイロアザミウマによる果皮被害果率はおおむね10%以下に抑えられます。
- ▶ 天敵密度を維持するためには、天敵に影響の大きい薬剤の使用は必要最小限にとどめ、土着天敵に影響が長い薬剤使用はできるだけ控えます。
- ▶ 土着天敵のすみかとして、圃場周囲に天敵の温存に適した植物（**マリーゴールド**、**スカエボラ**、**ごま**等）を植栽しておくことで、高い防除効果が期待できます。

活用場面

露地ナスを安定して生産し、消費者に提供することが可能となります。